

solution of some nonlinear degenerate parabolic equations, The Second International ISAAC Congress, 1999. 8. Fukuoka, Japan.

◆ その他

笹野一洋：富山医科薬科大学における教養教育，単科医科大学における教養教育モデルプラン策定のためのシンポジウム I，1999，12，香川医科大学。

## 物 理 学

教 授 豊 富 誠 三  
教 務 職 員 田 村 一 郎

◆ 学会報告

- 1) 田村一郎，水島俊雄，石川義和，桜井淳児：価数揺動物質 $CeFe_2Al_8$ と $LaFe_2Al_8$ のメスバウアー効果。日本物理学会1999年秋の分科会，1999，9，盛岡。
- 2) 水島俊雄，福田修一，酒井 寛，石川義和，田村一郎，桜井淳児： $CeFe_2Al_8$ の価数揺動状態。日本物理学会1999年秋の分科会，1999，9，盛岡。

## 化 学

教 授 広 上 俊 一  
教 務 職 員 角 田 広 子

◆ 研究概要

広上俊一，角田広子：気相および凝縮系での2-アゼチジノンの構造と電子状態の研究：計算化学的方法によるオレフィン分子と基底状態酸素原子の反応機構の研究：計算化学的方法による3原子分子の解離反応の遷移状態の研究

◆ 学会報告

広上俊一：水素原子と一酸化炭素から生成するホルミルラジカル(HCO)の反応障壁エネルギーの理論計算。1999計算化学討論会，1999，5，東京。

## 生 物 学

教 授 尾 崎 宏 基  
教 務 職 員 荒 館 忠

◆ 研究概要

前脳交連線維系の発生過程に関する神経解剖学的・神経生物学的研究，糖尿病治療薬の開発を目的とした天然生理活性物質の探索と応用に関する研究

◆ 学会発表

- 1) 尾崎宏基：脳梁形成におけるパイオニアニューロンの役割。第104回日本解剖学会総会，1999，3，三鷹。

## 統 計 ・ 情 報 科 学

教 授 折 笠 秀 樹

◆ 研究概要

糖尿病のQOL・医療経済・ガイドライン策定に関する調査研究，急性期精神病の病状と予後についての調査研究，経口避妊薬と子宮頸がんの因果関係についてのメタアナリシス研究，高脂血症に対するJELIS臨床試験のコーディネーションと統計解析，慢性腎不全に対する低蛋白食の効果を見るための臨床試験の計画，大腸がん患者の転帰・予後調査など。

◆ 著書・訳書

- 1) 折笠秀樹：第6章全般的な臨床評価。「これからの臨床試験」椿広計他編，86-97，朝倉書店，東京，1999。
- 2) 折笠秀樹：1. 糖尿病患者のQOLを評価するには。「糖尿病学の進歩—第33集—」日本糖尿病学会編，46-50，診断と治療社，東京，1999。
- 3) 折笠秀樹：メタアナリシスの具体例—脳循環代謝改善剤とグルコシダーゼ阻害剤を例に。「くすりのチェックは命のチェック」浜六郎他編，313-324。日本評論社，東京，1999。
- 4) 折笠秀樹：コラム「クロスオーバー試験とパラレル試験 (p.37)」，「メタ解析の手法と限界 (p.47)」，「NNT (p.63)」，「無作為割付け (ランダム化) (p.67)」，「オッズ比とハザード比 (p.93)」，「Cox比例ハザードモデル (p.101)」，「サロゲートエンドポイントとトルーエンドポイント (p.121)」，「ITT解析とPPB解析 (p.189)」，「p値と信頼区間 (p.285)」，「プロスペクティブ研究とレトロスペクティブ研究 (p.317)」，「後ろ向

き(レトロスペクティブ)研究の意義とその限界(p.323)、「PROBE試験(p.343)」、「オープン試験と二重盲検試験(p.351)」。「循環器トライアルガイド1999」井上博他編, ライフサイエンス出版, 東京, 1999.

- 5) 有吉 寛, 折笠秀樹(監修): Effective English Expertise: Vol.1. 会議の議事の進め方と質疑応答セッションへの関わり方. OCC Japan, 東京, 1999.
- 6) 折笠秀樹: QOL質問票開発における方法論上の留意点。「Quality of life」Quality of Life研究会編, 31-38, 日総研出版, 東京, 1999.
- 7) 有吉 寛, 折笠秀樹(監修): Effective English Expertise: Vol.2. プレゼンテーションおよびポスターセッションの準備と進め方. OCC Japan, 東京, 1999.

#### ◆ 原 著

- 1) Takagi S., Tanaka O., Origasa H., Miura Y.: The prognostic significance of femoral marrow magnetic resonance imaging in patients with myelodysplastic syndromes. *Journal of Clinical Oncology*, 17(1): 277-283, 1999.
- 2) Sakai H., Hayashi K., Origasa H., Kusunoki T.: An application of meta-analysis techniques in the evaluation of adverse experiences with anti-hypertensive agents. *Pharmacoepidemiology and Drug Safety*, 8: 169-177, 1999.
- 3) Homma A., Kusunoki T., Shimasaki S, Urata M, Ishino N, Sawada T., Hirai S, and the SKETCH Study Group (折笠はSKETCH Study Groupの一員): Reliability and validity of a rating scale for post-stroke psychiatric symptoms. *Alzheimer Disease and Associated Disorders*, 13(Suppl.3): S148-S158, 1999.
- 4) 折笠秀樹, 横山光宏, JELIS Study Group: 臨床試験に関する医師患者アンケート. *臨床薬理*, 30: 53-54, 1999.
- 5) 内潟安子, 折笠秀樹, 坂巻弘之, 岩本安彦: 糖尿病の医療経済学的分析—合併症医療費の検討—. *糖尿病*, 42(9): 743-750, 1999.
- 6) 折笠秀樹, 橋本 恵, JELIS Study Group: JELIS メガスタディ登録センターを通じての経験. 富山医科薬科大学一般教育研究紀要, 22: 33-41, 1999.

#### ◆ 総 説

- 1) 折笠秀樹: 臨床試験のやり方が変わる. 富山医科薬科大学一般教育研究紀要, 21: 25-31, 1998. (昨年の漏れ分)
- 2) 折笠秀樹: RCTとはどんなデザインか. *InfoMedica*. 1月号: 16-17, 1999.
- 3) 折笠秀樹: エンドポイントとは何のことか. *InfoMedica*, 5月号: 16-17, 1999.
- 4) 折笠秀樹: 統計的に有意なら信じていいか. *InfoMedica*, 9月号: 16-17, 1999.
- 5) 折笠秀樹: 患者のQOLを考える—QOL質問票開発における方法論上の留意点—. 月刊ナースデータ, 20(3): 57-64, 1999.
- 6) 折笠秀樹: 医薬品の臨床試験のデザイン. *臨床医薬*, 15(3): 412-417, 1999.
- 7) 折笠秀樹: シンポジウム「臨床試験の国際化: 3. 医薬品の臨床試験のデザイン」. *臨床薬理*, 30: 499-500, 1999.
- 8) 折笠秀樹: JELIS研究の一次予防パートの患者登録をおえて. *Atherothrombosis*, 2(2): 41-44, 1999.
- 9) 折笠秀樹: EBM時代における臨床統計学の役割. *Medical Forum CHUGAI*, 3(4): 20-25, 1999.
- 10) 折笠秀樹: 医薬品の臨床試験のやり方とデータの読み方—統計学的見地より—. *循環制御*, 20(2): 228-230, 1999.

#### ◆ 学会報告

- 1) 折笠秀樹: EBMとCochrane Library. 第16回糖尿病臨床疫学研究会, 1999. 1, 東京.
- 2) 折笠秀樹: メタアナリシスの注意点. 第2回システムティックレビュー・ワークショップ, 1999. 2, 東京.
- 3) 折笠秀樹: 糖尿病の疫学—QOLをどうとらえるか—. 第33回糖尿病学の進歩, 1999. 2, 富山.
- 4) Origasa H, Matsukura T.: Does oral contraceptives use induce cervical cancer? The XVIth Global Meeting of INCLLEN, 1999. 3, Bangkok.
- 5) 児玉和久, 住吉徹哉, 野々木宏, 平山篤志, 由井芳樹, 細田瑳一, 河合忠一, for the J-MIC(M) Investigators (折笠はJ-MIC(M) Investigatorsの一員): 冠動脈疾患における長期薬物療法の検討—J-MIC(M) Study中間報告. 第63回日本循環器学会年次学術集会, 1999. 3, 東京.
- 6) J-MIND研究グループ(折笠はJ-MIND研究グループの一員): 糖尿病性腎症の発症・進展に対

- するCa拮抗薬とACE阻害薬との長期効果の比較. 第42回日本糖尿病学会年次学術集会, 1999. 5, 横浜.
- 7) 折笠秀樹: EBM—情報の収集法(ワークショップ: EBM, 田嶋尚子モデレーター). 第42回日本糖尿病学会年次学術集会, 1999. 5, 横浜.
- 8) Shimozuma K., Katsumata N., Ohashi Y., Makino H., Takashima S., Sonoo H., Watanabe T., for the National Surgical Adjuvant Study Group of Breast Cancer (NSAS-BC) (折笠はNSAS-BCの一員): Impact of surgical adjuvant chemotherapy on quality of life (QOL) of patients with breast cancer. The 35th Annual Meeting of the American Society of Clinical Oncology, 1999. 5, Atlanta.
- 9) Watanabe T., Sano M., Tokuda Y., Kitaya T., Takashima S., Kono N., Kimura M., Ogita M., Yoshimoto M., Murai H., Ohashi Y., for the National Surgical Adjuvant Study Group for Breast Cancer (NSAS-BC). (折笠はNSAS-BCの一員): Toxicity profile of UFT (Uracil-Tegafur) observed in a phase III randomized comparison of surgical adjuvant chemotherapy with UFT versus CMF in high-risk node negative breast cancer patients. The 35th Annual Meeting of the American Society of Clinical Oncology, 1999. 5, Atlanta.
- 10) 折笠秀樹: 医学論文を理解するための統計学の知識(教育講演). 第17回日本神経治療学会総会, 1999. 6, 横浜.
- 11) Baba S., for the J-MIND Investigators (折笠はJ-MIND Investigatorsの一員): Comparison of nifedipine retard and enalapril in treating hypertensive NIDDM patients with normo-albuminuria (NA) or microalbuminuria (MA): 2-year analysis. The 58th Scientific Session of the American Diabetes Association, 1999.6, San Diego.
- 12) Origasa H., Komori T., Koshimizu T., Okano M.: A possibility of bridging through an international study (Invited Speaker). The 35 Annual Meeting of Drug Information Association, 1999. 6, Baltimore.
- 13) 太田和夫, 佐中 孜, 平沢由平, 中川雅夫, 秋澤忠男, 折笠秀樹, and KM-311血液透析研究会: 低分子ヘパリン(レベパリンナトリウム)の開発とその臨床評価. 第23回ヘパリン研究会, 1999. 7, 東京.
- 14) Origasa H., Matsukura T.: Pitfalls in meta-analysis of observational studies as an example of cervical cancer and oral contraceptives (Invited Speaker). The 6th Annual Biostatistics Workshop of Drug Information Association, 1999.8, Tokyo.
- 15) Kazumi T., Kikkawa R., Yoshino G., Nakashima M., Origasa H., Baba S., and J-MIND Study Group: Nifedipine retard and enalapril show a similar effect on albumin excretion rate in hypertensive NIDDM Japanese patients. The 4th International Diabetes Federation Western Pacific Regional Congress, 1999. 8, Sydney.
- 16) 折笠秀樹: EBM時代の臨床統計学—はじめに. 第7回計量生物セミナー(折笠・後藤, オーガナイザー), 1999. 10, 富士.
- 17) 折笠秀樹: 伝統医薬の臨床評価法に関する統計学的考察(招待講演). 国際伝統医薬フォーラム, 1999. 10, 富山.
- 18) 固武健二郎, 小山靖夫, 浜野恭一, 安富正幸, 小平 進, 加藤知行, 澤田俊夫, 秋本 伸, 三浦誠司, 小川暢也, 折笠秀樹, 第3次大腸癌化学療法研究会: 大腸進行癌に対する術後補助化学療法の検討—大腸癌5-FU 研究會・第1報. 第37回日本癌治療学会総会, 1999. 10, 岐阜.
- 19) 折笠秀樹: 大腸癌に対する臨床試験の評価法. 第54回大腸肛門病学会, 1999. 10, 東京.
- 20) 坂巻弘之, 大谷洋一, 内潟安子, 折笠秀樹, 大谷敏嘉, 池田俊也, 岩本安彦: 糖尿病患者における日本語版EuroQolによるQOL測定の試み. 第5回日本薬剤疫学会学術総会, 1999. 11, 宇部.
- 21) 折笠秀樹, 内潟安子, 大谷洋一, 坂巻弘之, 大谷敏嘉, 岩本安彦: 糖尿病患者の病態・症状の違いとSF-36. 第20回日本臨床薬理学会年会, 1999. 12, 横浜.
- ◆ その他
- 1) 折笠秀樹: 臨床試験における統計学的支援. 厚生省職員等技術研修プログラム, 1999. 2, 東京.
- 2) 折笠秀樹: EBM(根拠に基づく医療)とは何か—インフルエンザワクチンを手がかりに. 富山県保険医協会・臨床懇話会, 1999. 2, 富山.
- 3) 折笠秀樹: 外来診療におけるEBM的アプローチ. 魚津市内科医会・学術講演会, 1999. 3, 魚津.

- 4) 折笠秀樹：臨床試験における生物統計学の役割 (特別講演). 第11回腎移植勉強会, 1999. 4, 名古屋.
- 5) 折笠秀樹：臨床研究デザイン. 「生物科学研究デザインの基礎から統計学の正しい使い方」入門セミナー (主催・メディカル・コア), 1999. 4, 東京.
- 6) 折笠秀樹：EBM的アプローチとは何か? 糸魚川市西頸城郡医師会・学術講演会, 1999. 5, 糸魚川.
- 7) 折笠秀樹：書評「EBM実践ワークブック」. DITN, 第258号: 6, 1999.
- 8) 折笠秀樹：計数値の統計解析. 「生物科学研究デザインの基礎から統計学の正しい使い方」入門セミナー (主催：メディカル・コア), 1999. 6, 東京.
- 9) 折笠秀樹：臨床研究論文における統計的手法 (特別講演). 第1回京都MEK研究会, 1999. 7, 京都.
- 10) 折笠秀樹：臨床研究デザイン (特別講演). 全日本民医連大会第4回学術・運動交流会, 1999. 9, 長野.
- 11) 折笠秀樹：高血圧を例にした研究デザインとEBM (特別講演). 第59回東京女子医科大学高血圧研究会, 1999. 9, 東京.
- 12) 折笠秀樹：臨床疫学及び臨床統計学の基礎知識. 金沢大学EBMワークショップ, 1999. 9, 金沢.
- 13) 折笠秀樹：大学人の使命としての社会サービス (巻頭言). 日本計量生物学会ニュースレター, No. 69: 1, 1999.
- 14) 折笠秀樹：ラジオ短波「メタアナリシスとその危険性」(1999. 11. 20放送).
- 15) 折笠秀樹：臨床試験の評価と考察の要点 (基調講演). 第6回消化器癌を考えるー若手の会ー, 1999. 12, 東京.

## 英 語

教 授 藤 本 正 文  
 助 授 濱 西 和 子  
 助 授 松 倉 茂  
 外国人教師 ロレイン・H・サッカ

### ◆ 研究概要

(藤本) 米文学, 辞書論  
 (浜西) 英文学, 仏文学  
 (松倉) 意味論 (語用論を含む)

(サッカ) Teaching of English to Speakers of Other Languages.

### ◆ 原 著

- 1) Sakka, Lorraine H.: Content-based Instruction: Teaching Pre-clinical Communication Skills for Health Professionals, The Journal of Liberal Arts and Sciences (富山医科薬科大学一般教育紀要), 61-74, vol 22, 1999
- 2) Goodall, Shona, Matsui, Mie and Sakka, Lorraine H.: An Observational Study into the Cross-cultural Differences of Postural-gestural Communication between Japanese and Non-Japanese, 47-60, The Journal of Liberal Arts and Sciences (富山医科薬科大学一般教育紀要), vol 22, 1999

## 独 語

助 授 名 執 基 樹

### ◆ 研究概要

文学システムの経験的研究. 文学など人間の文化を制作・媒介・受容・評価などの諸行為によって営まれる社会現象 (文学システム) と捉え調査する. 目下, 文学賞の受賞データをもとに, そこにあらわれている文学システムの権威構造を調査している.

## 保 健 体 育

教 授 小 野 寺 孝 一

### ◆ 研究概要

生活習慣病, 主として高脂血症, 高血糖症, 肥満を中心に運動, 食事による改善方法について検討している. また児童生徒の体力の向上方法についても検討している.

### ◆ 学会報告

- 1) 加藤則子, 西野紀子, 前田昭次, 滝上節子, 三辺忠雄, 小野寺孝一: 酸素運搬系機能の水準および肥満度と医学的検査異常値出現率の関係について. 第21回日本健康増進学会, 1999, 10, 福岡

### ◆ その他

- 1) 小野寺孝一: 富山県児童生徒の体力, 運動能力の推移について. 富山県の学校体育, 第8号, 平成11年, 77-80